

先人の足跡

— 神戸タマ —

串間市の児童福祉の礎を築いた神戸タマさん。
 本号では、県内初の認可保育所開設に
 大きく寄与したタマさんに
 スポットをあててご紹介します。

日本で保育が広まったのは戦後の高度経済成長により、家族や近隣で行っていた伝統的な子育ての力が弱まったことに由来しますが、それ以前から幼稚園や保育所が誕生していました。
 日本における最初の幼稚園は、明治8（1875）年、京都の柳池小学校において校舎の一隅を充当し開設した『幼稚園』が始まりとなつていきます。また、日本最初の保育所は、明治23（1890）年に赤沢鐘美が設立した新潟静修学校の付設保育部であるとされています。

串間市に最初の保育所ができたのは昭和3年。明治から昭和にかけて、串間市の経済、教育、政治、文化などをけん引した神戸家の一族である神戸タマさんにより福島地区・今町に開設されました。
 この保育所は、県内初の認可保育所として開設され、現在も「りんぼかん保育園」として多くの子どもたちの成長に携わっています。

託児所開設の経緯

大正から昭和に変わるころ、社会経済的にとても厳しく、特に農漁村の経済状況は切迫し、失業と生活苦にあえぐ者が日に日に増加しつつありました。串間市も例外ではなく、生活困窮のため、犯罪をおかす者が次々に現れる状況でした。この状況下において各家庭も子どもへ愛情を注ぐ余裕もなく、路傍海浜にて放置するありさまだったそうです。

昭和2（1927）年のある日、今町の浜辺で子ども5人が溺死するという事件が起き、この悲惨な事件をきっかけに、タマさんは親が働いている間に親に代わって子どもたちを保育し、また、母親が働きやすい環境を作るため保育施設の必要性を痛感したのでした。そして翌年の昭和3年に私財を投じ、今町婦人会や常照寺住職、有志の協力を得て宮崎県で初めての常設託児所を開設しました。

神戸タマの歩み

明治22（1889）年に広島県で生まれ、女学校を卒業後、明治43（1910）年に当時、海運や水産、製材業などで財をなした神戸家に嫁ぎ、串間市で生活を始めました。

その後、昭和2年に起きた子どもの溺死事件をきっかけに、昭和3年に託児所を開設し、所長に就任。その後は、園長として児童教育に力を入れながら、県保育会会長や県児童福祉審議会委員を務められました。これらの業績が認められ、昭和28年には藍綬褒章を受章されました。

このように、タマさんは本市の児童福祉の礎とも言えるべき重要な役割を果たし、次世代を担う子どもたちの育成に多大なる貢献をしたのです。



藍綬褒章 受章時の様子



現在に受け継がれるタマの意志

りんぼかん保育園では、今も色あせないタマさんの教育理念のもと、約30人の子どもたちがのびのびと保育園生活を送っています。



保育園では子どもたちが楽しそうに遊んでいます。



創立30周年記念碑

記念碑には設立の経緯やタマさんの功績が当時の市長、谷口静紀氏により記されている。

「まさに大奥様」



タマさんの甥
 福島地区・西今町
 かんべ
 神戶 仁さん

一番印象に残っているのは、豪快で太っ腹だったこと。まさに女傑ですね。終戦後の何もないときにもたくさんごちそうしてもらった記憶があります。私財を投げうっているんなことに積極的に投資をしていました。甥ということがかわいがってもらいましたが、保育園の中ではいきはやく平等に扱われるなど、人間的にも立派な人だったと思います。串間の保育のために尽力した伯母を誇りに思います。

「あたためて待つ保育を大事に」



りんぼかん保育園 園長
 みやもと わきこ
 宮本 和喜子さん

タマ先生の頃から現在も、園児たちを育てるにあたり、『あたためて待つ保育』という姿勢を大切にしています。たっぶり愛情を注いで、あとは園児たちの自発性に任せるという意味です。子どもだけではなかなか伝わらない事も多いので、保護者との連携も大事にしています。保護者が安心して預けていただけのような保育園を目指し、宮崎県最初の保育園をこれからも残していきたいです。

私たちが日常生活を送っている背景には、多くの先人たちの苦労や努力があります。そういった先人がここに串間にいたという事実は、私たちにとっての誇りといえます。いまを生きる私たちは、先人が残してくれたものを大切にし、後世につないでいかなければなりません！

